道営畑総事業　斜里地区　事業完了アンケート調査（H26年　2月調査）

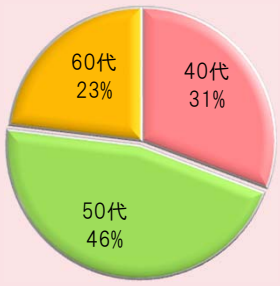
事業名	地区名	市町村	受益面積	受益戸数	採択年度	工期
畑地帯総合整備事業	斜里	斜里町	2,275.9ha	99戸	H16	H16～H25

工事内容				
今回の調査対象工種		今回の調査対象外工種		
暗渠排水	区画整理	土層改良		畑地かんがい
		心土破砕	土壌改良	
21.4ha	236.9ha	114.7ha	114.7ha	2,188.5ha

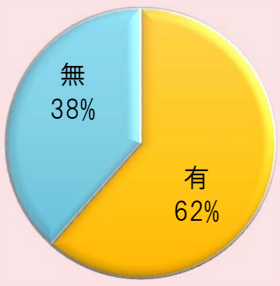
■アンケート回収率：１３／３５　＝３７．１％

Ⅰ　基本事項

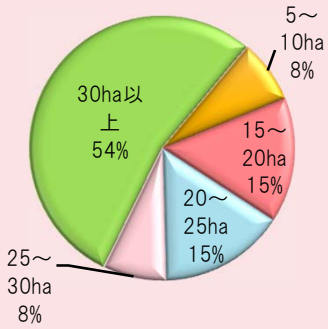
年齢



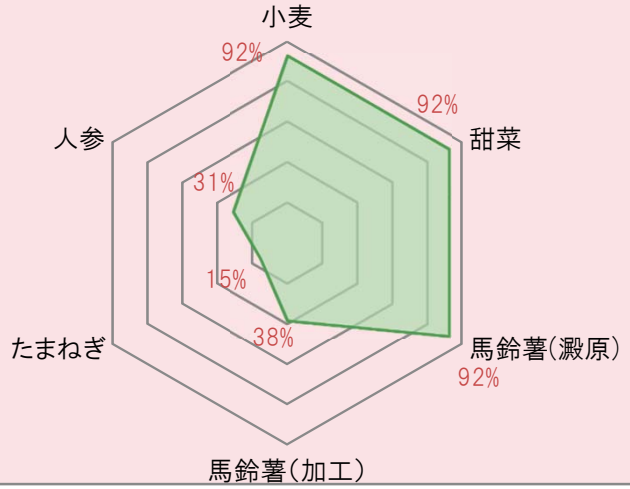
後継者



作付面積



生産作物

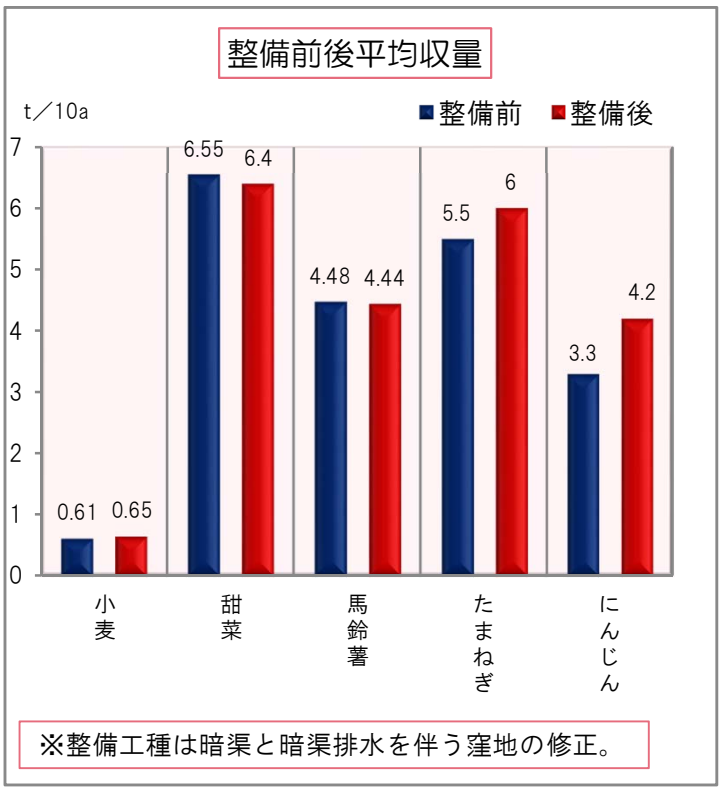


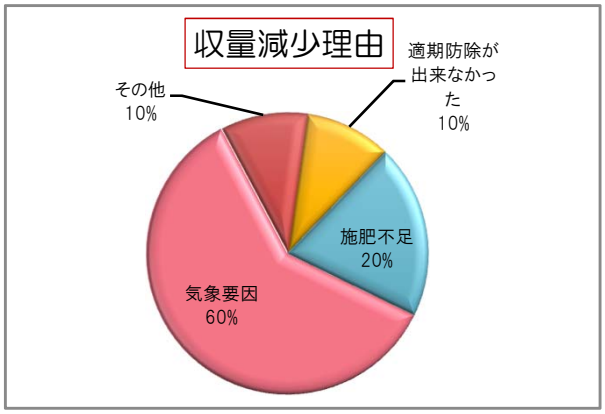
■年齢：50代以上が69%と高齢化傾向。
■後継者：62%が後継者有り。
■作付面積：30ha以上が54%。
■生産作物：小麦、甜菜、馬鈴薯（澱粉原料）が92%。　馬鈴薯(加工用)が38%
畑作3品を主体とし、人参の作付けが31%となっている。

道営畑総事業　斜里地区　事業完了アンケート調査（H26年　2月調査）

Ⅱ　事業効果

■１　収量効果：整備前の平年収量と事業整備後の平均収量及び収量が減少した場合の要因

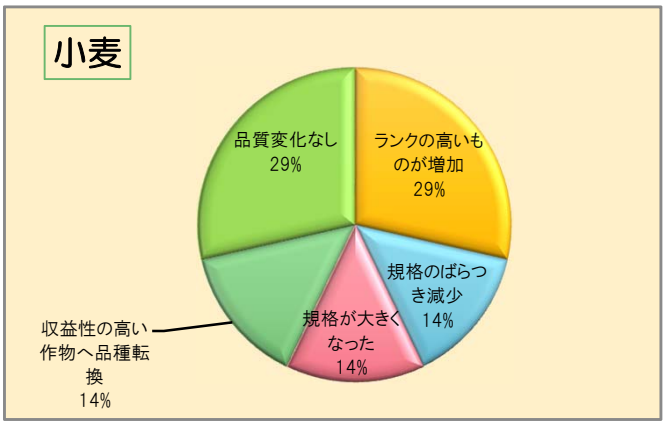


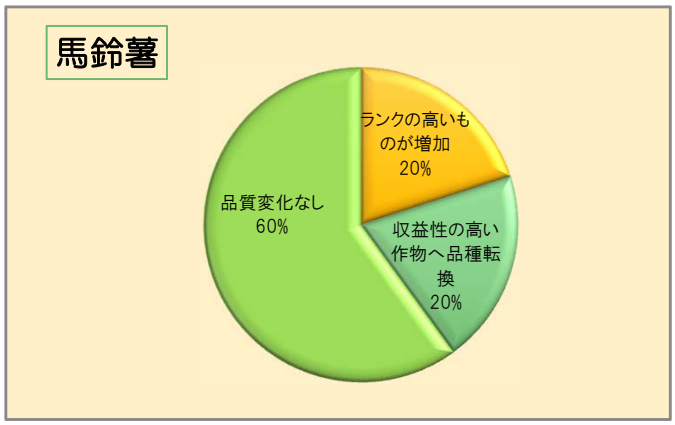


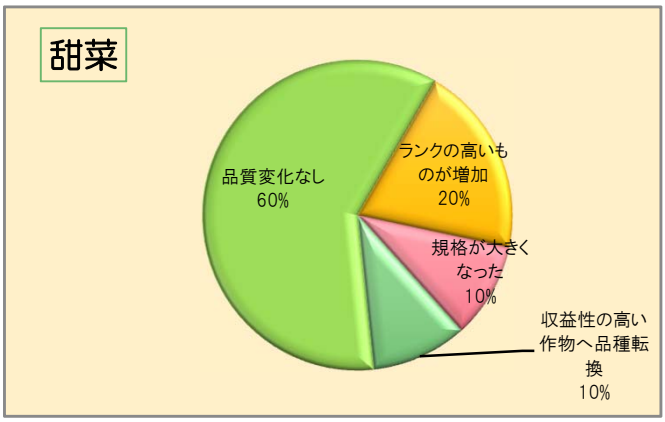
■収量は、小麦、たまねぎ、にんじんが収量増加。
■甜菜、馬鈴薯が減収。

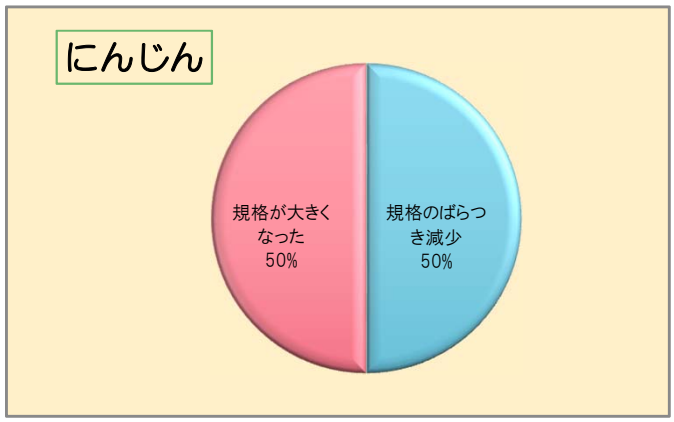
【収量減少理由】
融雪の遅れにより甜菜や馬鈴薯の作付け時期が遅れた。　作付けの遅れに伴い、防除が適期にできなかった。　干ばつの影響　などの理由が挙げられており、平成25年の異常気象が大きく影響していると思われる。

■２　品質変化：事業整備後の品質変化









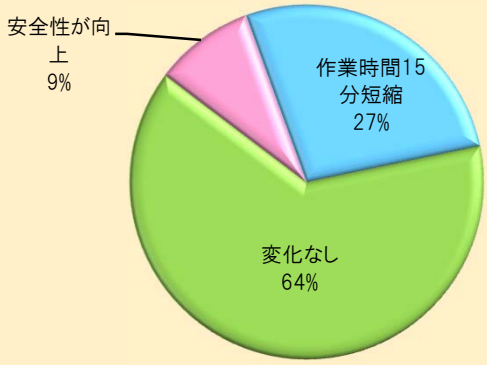
■小麦：約7割が品質の改善効果あり。　■馬鈴薯：約4割が品質改善効果あり。
■甜菜：約4割が品質の改善効果あり。　■にんじん：品質の改善効果が100%。
■その他：収益性の高い「にんじん」に品種転換できた。　根腐れがへった。　等の意見がありました。

道営畑総事業　斜里地区　事業完了アンケート調査（H26年　2月調査）

■３　営農効率：事業整備後の営農効率の変化とその要因

①営農効率変化
（※1時間当たりの軽減時間）

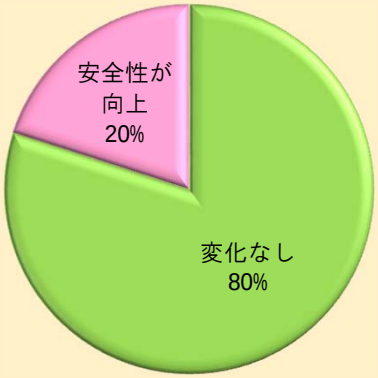
暗渠



■暗渠

約3割が15%程度作業時間が軽減したとの回答。

暗渠＋窪地修正

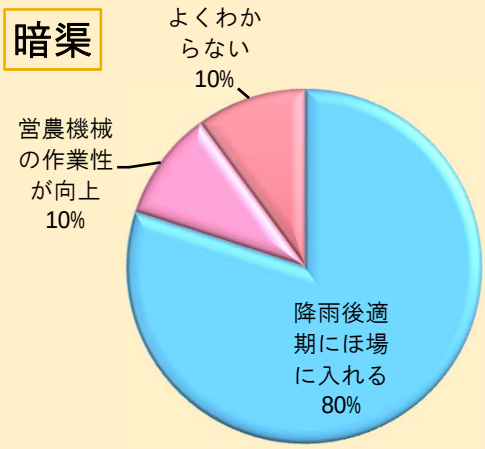


■暗渠＋窪地修正

作業時間の軽減がないとの回答が100%となっているが、作業精度が向上し負担が軽減されたとの意見があった。

②営農効率向上の要因

暗渠

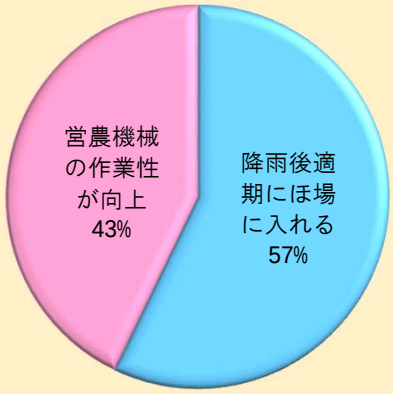


■暗渠

「降雨後適期にほ場に入れる」が約8割。

「営農機械の作業性が向上」が約1割。

暗渠＋窪地修正



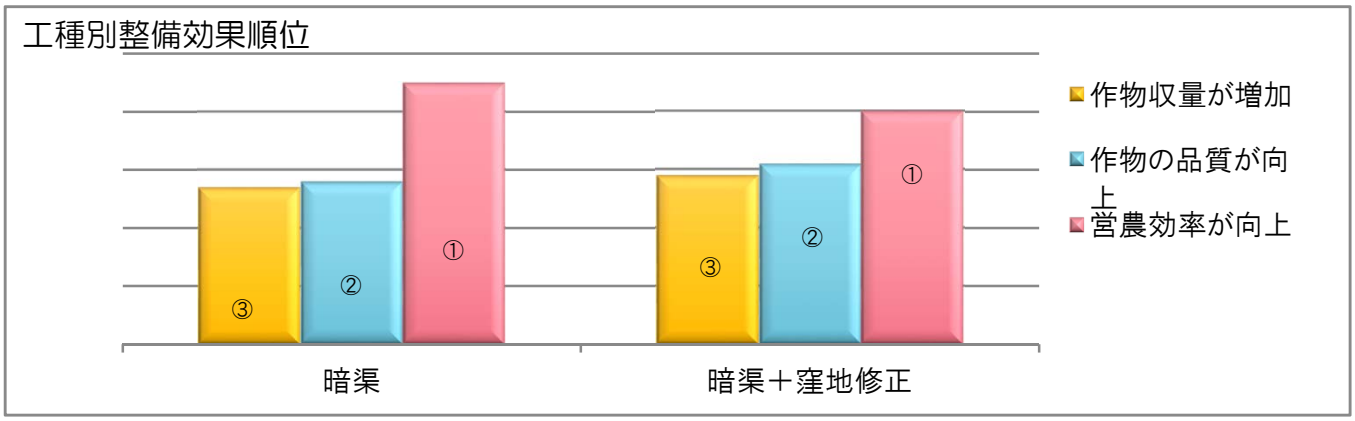
■暗渠＋窪地修正

「降雨後適期にほ場に入れる」が約６割。

「営農機械の作業性が向上」が約４割。

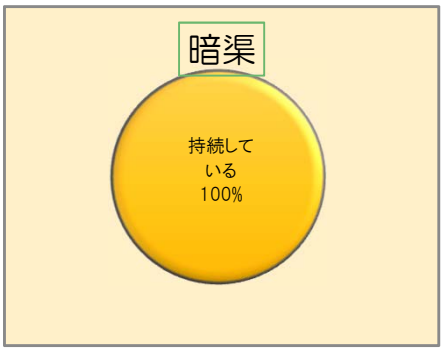
道営畑総事業　斜里地区　事業完了アンケート調査（H26年　2月調査）

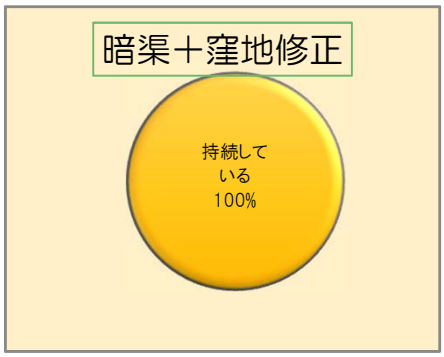
■４　整備効果：効果のもっとも高かった順位。

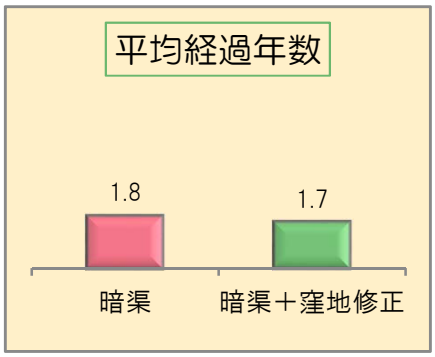


・暗渠、暗渠＋窪地修正　ともに営農効率の改善が一番効果が高かったと評価された。

■５　事業効果持続：整備経過年数と効果の状況。



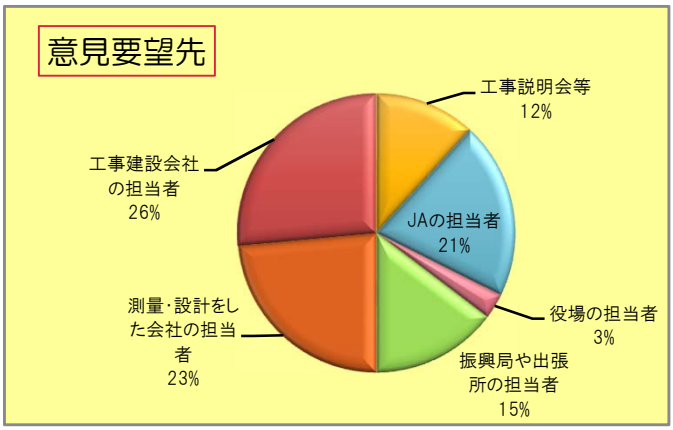




【効果の持続について】
■本地区の暗渠、暗渠＋窪地修正　の工事は、平成23年からの工事施工であったため、効果が持続しているとの意見が100%となった。
■本地区以外の過去に整備した暗渠の意見として、10年程度経過した暗渠が、踏圧や暗渠資材の劣化、耕盤層の形成などによる影響で機能が低下しているとの意見があった。

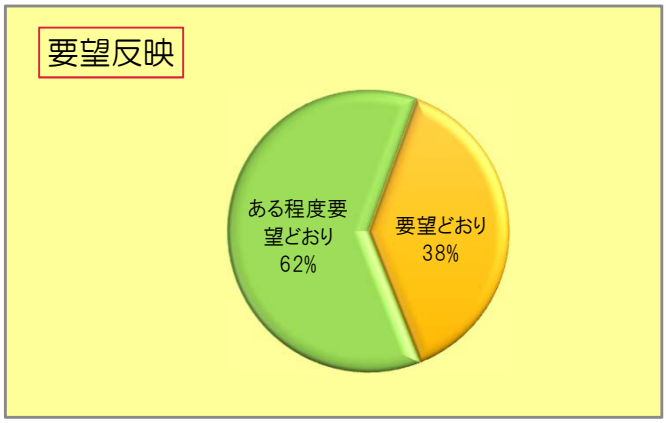
Ⅲ　工事内容

■１　工事に関しての意見要望先



■意見要望先の15%が出張所担当者との回答。
工事の建設会社や測量設計の担当が２５％程度との回答。

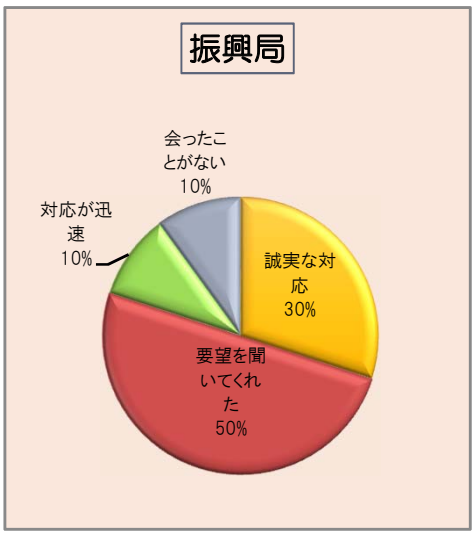
■２　工事への要望反映状況

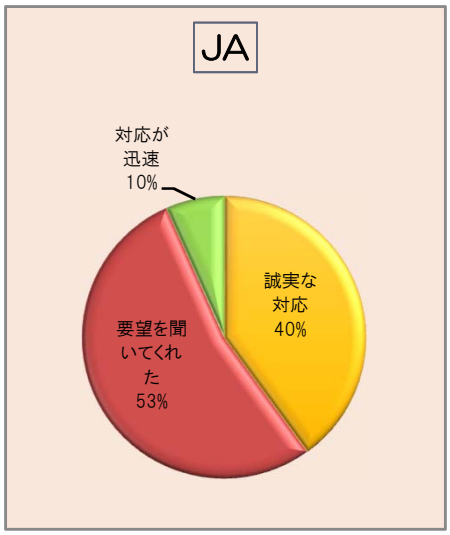


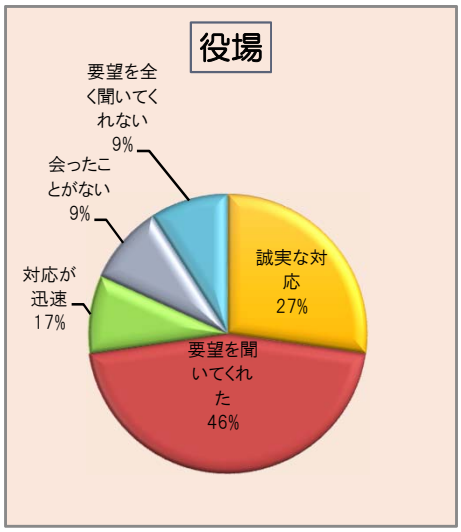
■要望の反映度としては100%との回答。

道営畑総事業　斜里地区　事業完了アンケート調査（H26年　2月調査）

■３　所属担当者の対応状況







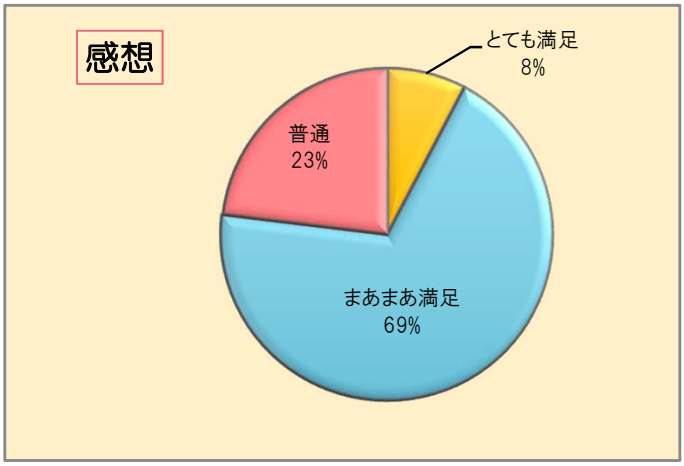
■振興局・JA・役場とも対応について高い評価であったが、振興局職員に合ったことがないとの意見もあった。

■4　工事監督員対応評価

【良かった点】
- 調査・設計時の聞き取り方が上手。
- 複数の施工方法を説明してくれた。
- 要望を聞いてくれる。

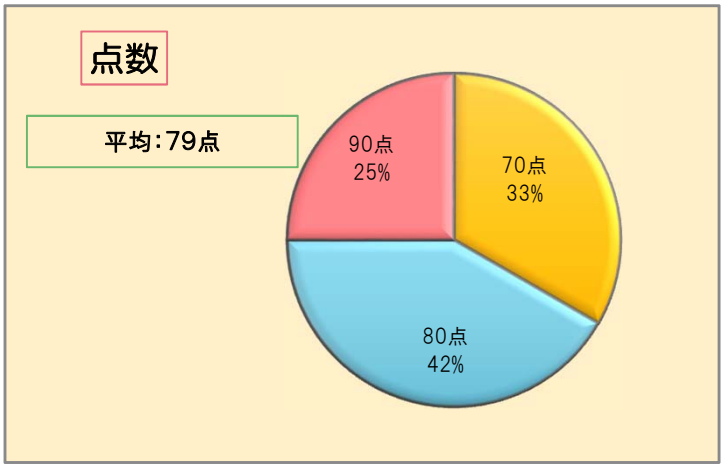
【悪かった点】
- 業者によって対応に差があるが、おおむね誠実に対応してくれた。
- 出勤時間（勤務開始時間）が遅い。

■５　工事の感想



■約8割が満足と回答。

■６　事業全体評価点数

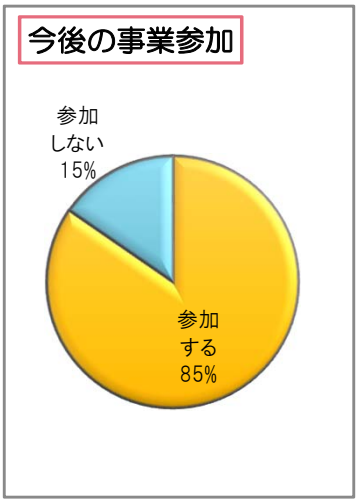


■平均点は79点評価を受けている。
80点以上は67%となった。

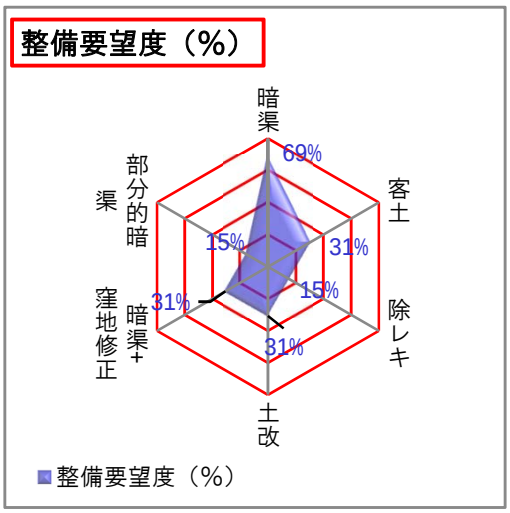
道営畑総事業　斜里地区　事業完了アンケート調査（H26年　2月調査）

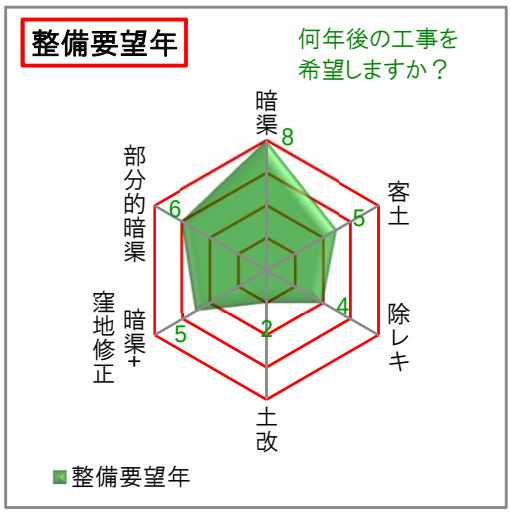
Ⅳ　今後の基盤整備要望について

■１　今後の事業参加



■２　整備要望・整備要望年





■今後の事業参加：85%が参加を要望。

■整備要望工種：暗渠が69パーセントと整備要望が高い。
グラフには表示されていないが、区画整理の整備要望は8パーセントだった。

■整備要望年：暗渠や暗渠＋窪地修正は平均5～8年後の整備要望となった。

■３　今後、農業を持続していく上での課題

①営農で一番困っている課題

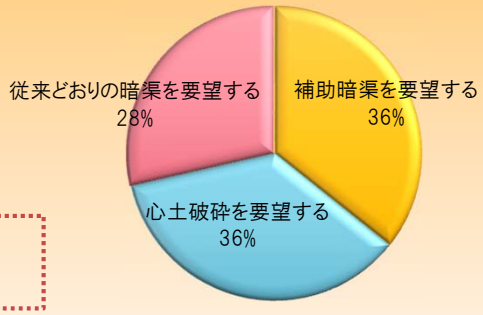
・湿害、高温、干ばつなどの異常気象に対応すること。
・泥炭の割合が多く整備後、耐用年数前に効果がなくなるほ場がある。
・泥炭地の明渠排水、暗渠排水の維持管理。
・水害対策（排水経路の確保や、搬入土砂による地盤上げ）
・石礫地の礫。

②基盤整備による改善

・基盤整備による改善できることは大いにあると思う。期待している。
・暗渠排水整備による湿害が軽減できる。
・客土（搬入土砂による地盤上げ）と排水路の確保による水害対策。

■４　今後の暗渠整備要望

既設暗渠が効かなくった時、
どのような工事を要望しますか？



■補助暗渠を希望しない理由は？

道営畑総事業　斜里地区　事業完了アンケート調査（H26年　2月調査）

■５　今後の基盤整要望

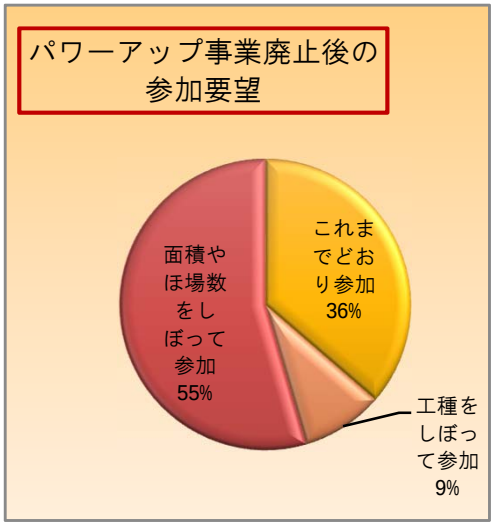
・事業費負担の軽減。

・客土。

・畑の均平。

・現在の深さは浅いと思う。少し深くしてほしい。

■６　パワーアップ事業参加



【パワーアップ事業に関する要望】

・食料の安定供給に欠かせない足腰の強い農業作りに大きく寄与する事業なので、延長、継続を希望します。

・今後とも継続をお願いします。

・負担が少ないのが良い。

・ぜひ継続してほしい。

■７　全体をとおしての意見要望

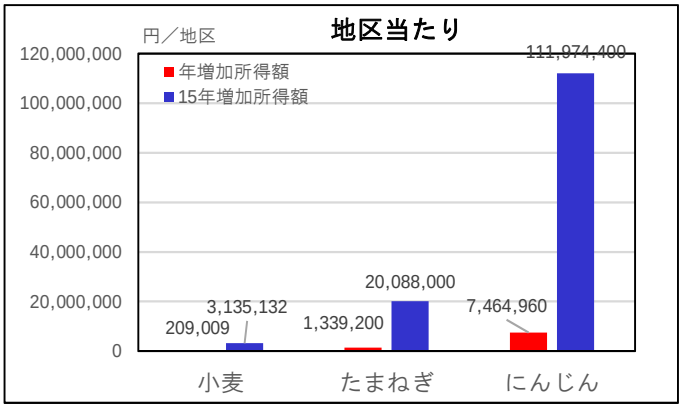
・工事業者によって暗渠工事の最後の埋め戻し等、仕事がきたない業者がいる。

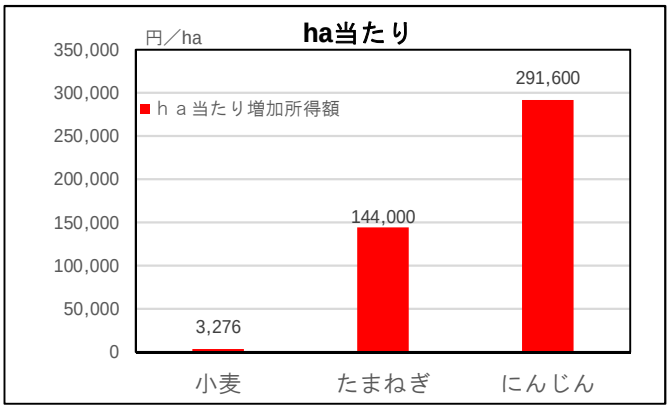
・堆肥散布の事業を継続的にしてほしい。

道営畑総事業　斜里地区　事業完了アンケート調査（H26年　2月調査）

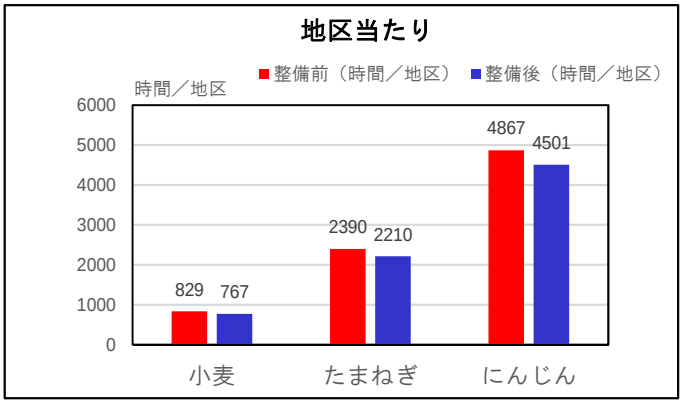
＜参考＞

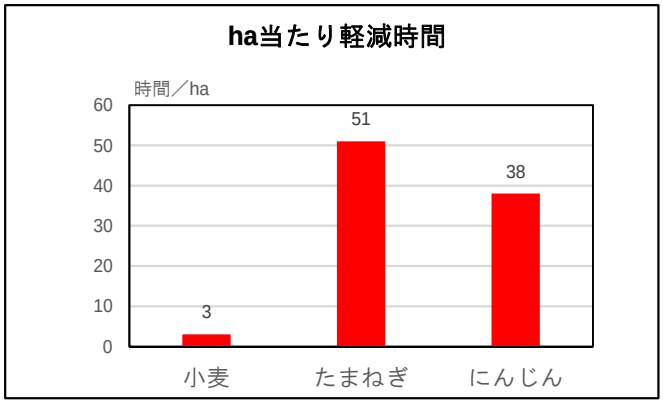
暗渠施工による所得の増加額





暗渠施工後の労働時間





作物	暗渠受益面積		平均増収量	販売価格	所得率	面積当たり増加所得額	年増加所得額		総労働時間	
	作付率	作付面積(a)					地区当たり	戸当たり	整備前	整備後
	(%)	① (ha)	② (kg/10a)	③ (円/kg)	④	⑤=②×③×④ (円/ha)	⑥=①×⑤ (円/地区)	⑦=⑥/① (円/戸)	(時間/地区)	(時間/地区)
小麦	24.7%	63.8ha	40	21	0.39	3,276	209,009	2,111	829	767
たまねぎ	3.6%	9.3ha	500	60	0.48	144,000	1,339,200	13,527	2,390	2,210
にんじん	9.9%	25.6ha	900	90	0.36	291,600	7,464,960	75,404	4,867	4,501
計							9,013,169	91,042	8,086	7,478

■暗渠受益面積：作物別の作付面積は地区の平均作付率により算出。
■面積当たり増加所得額：作物別の平均増収量、販売価格、所得率により算出。
■年増加所得額：暗渠排水の施工により増加する地区全体の所得額。暗渠受益面積と面積当たり増加所得額により算出。
■15年増加所得額：暗渠機能効果が15年持続した場合の増加所得額で、年増加所得額を15倍して算出。
※販売価格：小麦は秋まき小麦、馬鈴薯は食用馬鈴薯、豆類は大豆の販売価格を適用。
■総労働時間
・整備前：畑・野菜複合経営30haモデルの総労働時間「2,189時間」を基に作物別のha当たり労働時間を算出し、これと暗渠受益面積により整備前の総労働時間を算出。
・整備後：「営農の効率変化」アンケート結果により、整備前の労働時間を8割25%軽減させて算出。
・ha当たり軽減時間：整備前と整備後の労働時間の差を地区の作物別の作付面積で除して算出。
（販売価格等はJA地域農業振興計画から引用）